

一般財団法人伊勢神宮崇敬会
令和5年度運営方針及び事業計画

運 営 方 針

本年は、当会が昭和28年（1953）12月2日に設立認可を受けてから、おかげさまで70周年を迎える。急速に変化する現代社会において、設立理念に立ち返り、将来に向けて歩みを着実に進めていくことが重要との認識に立ち、我が国を担う次の世代にも神宮や神社、伊勢地方に伝わる風習に親しみ、精神を豊かにしていただけるよう、様々な事業を通して努める。

特に、設立当初から開催の新穀の恵みに感謝する「新穀感謝祭」や、昨年度から実施している倭姫命のご事績を辿る「倭姫命ご巡幸まいり」など、恒例・新規事業を着実にを行い、斯道興隆の一助となるよう尽力する。

また、崇敬者及び各関係者との連繋を密にすることはもとより、会員制度を活用し、神宮の魅力を会報誌「みもすそ」やウェブサイト、SNSを通して発信する。

神宮会館の運営では、「参宮の宿」としての原点に立ち返り、お伊勢参りを安心して行っていただけのように、誠実なおもてなしを行う。昨年度1年間で、約10,000人のご参加をいただいた「内宮早朝参拝案内」を本年も軸に、伊勢の神宮が持つ歴史や魅力をより多くの宿泊者に伝える。

事 業 計 画

1. 文化及び芸術の振興

① 第66回神宮奉納大相撲

日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じて守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露する。横綱の手数入り、また神宮相撲場ではトーナメント戦等を行う。
（4月2日）

② 神宮125社まいり

本年度で23期目に入る。神宮で正宮・別宮・摂社・末社・所管社としてお祭りされる全てのお社に参拝し、様々な形で営まれる神宮の神祭りの姿とその心を学ぶ。年5回のコースに分けて行い、どのコースからでも参加ができる。非会員は参加不可。

・各巡拝日程（4月13・14日、5月22・23日、9月26・27日、10月26・27日、令和6年2月14・15日 定員各20名）

③ 倭姫命ご巡幸まいり

令和5年の倭姫宮御鎮座百年を記念して、倭姫命の御事績や教えについて学び、倭姫命がお定めになったと伝えられるお社に参拝し、旧蹟などを巡り、約2,000年を遡る神宮の原点に思いを致し崇敬心を深める。非会員は参加不可。

・春コース日程（5月25・26日 定員20名）

・秋コース日程（10月18・19日 定員20名）

④ 神宮ばら園の運営

昭和62年10月に開園した神宮ばら園を運営して春と秋に無料開園し、訪れる方々に安らぎの場を提供する。また皇室敬慕の心を育むため皇族のお名前を冠したプリンセス・ローズを育成し公開する。開園期間外にも関心を寄せていただけるよう、コンテンツ配信用プラットフォーム「note」に於いて開花状況や育成記録等の情報を発信する。

⑤ **小笠原流礼法教室と神宮茶室での呈茶**

神宮での神楽奉納と神宮茶室での呈茶を通して敬神の心とともに伝えられた「みやび」や「詫び寂び」の美を愛でる。茶道の経験が無い方でも参加できる。

(5月31日・6月1日、8月31日・9月1日、2月29日・3月1日 定員各10名 年3回)

⑥ **神宮祭典の奉拝**

2,000年に亘り営まれているお祭りを間近に奉拝し、そこに受け継がれる神祭りの心を体感する。夜間に行われる6月・12月の月次祭(内宮)と神嘗祭(外宮)の由貴夕大御饌をはじめ、年間恒例のお祭りを奉拝する。

⑦ **第46回神恩感謝祭**

6月の月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩に感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講演、別宮の由貴夕大御饌の奉拝なども行う。(6月18・19日 定員70名)

⑧ **夏至まいりと茅の輪作り体験**

夏至の日に神宮に参拝し、太陽の恵みのもとに営まれる大いなる自然の力に対する感謝と畏敬の念を深める。また、古来この季節には夏越の祓いを行い無病息災を願う風習があり、それに因んだ茅の輪作りを体験し、身体健全を祈る。(6月20・21日 定員20名)

⑨ **第5回神宮奉納弓道大会**

全国の愛弓家より「一度は伊勢の神宮弓道場で弓を引いてみたい」という切望に応え、弓道技能の向上と弓友相互の親睦を図り、弓道の発展に寄与することを目的に大会を開催する。本年は、神宮弓道場創設60周年の記念大会となる。(7月8日)

⑩ **第52回初穂曳への参加**

神嘗祭に合わせて全国からの初穂米を募り、伝統文化行事「お木曳」の継承を目的に行われる初穂曳の行事に参加して初穂米を神宮に奉納し、その夜に行われる外宮の由貴夕大御饌を奉拝する。〔神社本庁協力〕(10月15日)

⑪ **第69回伊勢神宮新穀感謝祭**

新穀への感謝を捧げる国民総参宮との趣旨を掲げ、全国から多くの参列者を迎えて特別参拝とお神楽奉納を行う。併せて農業をはじめとした産業の振興に貢献された功労者の顕彰を行い、さらなる農事発展を祈念する。(11月上旬～12月上旬)

⑫ **第62回伊勢神宮奉納書道展**

毎日新聞社との共催で、1,400年以上に亘り生まれ洗練されてきた書道の振興を図り、書の芸術性を昂揚する。全国各地から作品を公募し、内宮饗膳所において展示のうえ優秀作品を表彰する。(展示期間11月25日～12月4日、表彰式12月2日)

⑬ **令和5年の御礼まいり**

12月の月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩のもとにその1年をお守りいただいたことへの感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講話、別宮の由貴夕大御饌の奉拝なども行う。

(12月18・19日、12月24・25日 定員各50名)

⑭ **設立70周年記念事業**

昭和28年(1953)12月2日の設立以来70周年を迎えるにあたり、設立70周年を記念し式典を行う。(3月)

⑮ **第67回神宮奉納大相撲**

日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じて守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露する。横綱の手数入り、また神宮相撲場ではトーナメント戦等を行う。

(3月31日)

2. 児童及び青少年の健全育成

① 第 14 回伊勢と神宮 伝統文化体験教室

全国の小学生とその保護者を対象に、伊勢を中心に育まれた伝統文化を学び、歴史や文化を尊ぶ健全な心の育成を目的とした体験型教室を開催する。神宮の神事でも行われる火鑽具による火起こしや、伝統文化に因んだ工作の体験を行う。(8月10・11日 定員30名)

② 第 61 回伊勢神宮奉納全日本学生弓道大会

全日本学生弓道連盟・神宮司庁・三重県弓道連盟との共催で、第 71 回全日本学生弓道王座決定戦・第 69 回東西学生弓道選抜対抗試合・第 47 回全日本学生弓道女子王座決定戦・第 47 回女子東西学生弓道選抜対抗試合を開催する。(11月下旬)

3. 会員組織の拡充と展開

① 入会促進

日本人の大きな精神的支柱である伊勢の神宮を多方面から紹介し、受け継がれてきた神を敬い日本を愛する心の涵養に努めるとともに、遷宮を次世代へと繋ぐ「懸け橋」として、祭典案内等の様々な施策を講じ、会員の拡充を図る。

神宮 125 社を伝える特設ページ「日本人の心のふるさと～お伊勢さんを歩こう～」など、ホームページを活用し、神宮はもとより伊勢の魅力や歴史を継続発信する。

② 第 28 回会員研修会

内宮古殿地清掃や夜間参拝、神宮に関する講話などを通して、神宮への崇敬心や知識理解を幅広く深めるための研修を行う。より多くの会員に参加頂けるよう年 2 回開催する。

(春 5 月 14・15 日、秋 10 月 9・10 日 定員各 50 名)

4. 宿泊、研修施設等の運営

① 神宮会館の運営

お伊勢まいりの宿として、早朝参拝案内をはじめ参宮促進及び御神徳宣揚に努め、伊勢の神宮が伝えてきた文化及び芸術の魅力をより多くの方に知っていただけるよう努める。

(ア)第 23 回八朔まいりとお水汲み

伊勢では八朔の日(8月1日)に五十鈴川の水を汲んで瀧祭神に参拝し、その水を神棚に供えて一年の家内安全・無病息災を祈る風習があり、それに倣ったお参りをしてお加護を祈りお水を持ち帰る。(7月31日・8月1日 定員50名)

(イ)第 24 回冬至まいりと注連縄作り体験

冬至の日に神宮に参拝し、宇治橋大鳥居正面から昇る朝日を拝んで自然に対する感謝と畏敬の念を深める。また、伊勢では一年中玄関に注連縄を飾り無病息災を願う風習があり、その注連縄作りを体験し新年に向けて家内安全を祈る。(12月21・22日 定員75名)

(ウ)厄年まいり

厄年という人生の節目に際して、節分という鬼を払い福を招く季節に合わせて神宮に参拝し、さまざまな厄を祓い厄年およびそれ以降の人生の安寧を祈るお神楽を奉納し、厄除けのお守りを頂く。(2月4・5日 定員20名)

(エ)還暦まいり

還暦という人生の節目に際して、立春という四季の始まりの季節に合わせて神宮に参拝し、それまでの神恩への感謝とこれからの人生へのご加護を祈るお神楽を奉納し、身体健全のお守りを頂く。(2月6・7日 定員40名)

(オ)第 33 回お伊勢さん正宮・別宮まいり

その年の豊穰を祈る神宮の祈年祭に合わせて、内宮・外宮の両正宮と全別宮を 1 泊 2 日

で巡拝し、別宮の祭典奉拝や神宮の文化施設見学も行う。希望者は巡拝するお宮の御朱印も受けられる。(2月17・18日 定員30名)

5. 会報、図書その他印刷物の編纂と刊行

① 会報誌「みもすそ」

皇室・神宮に関する記事、伊勢志摩の歴史・文化の話題や本会行事などの情報媒体として、各会員に配布する。創刊から4月で第106号の発行となる。(年4回発行)

② 叢書

神道有識者に依頼し御神徳の宣揚、神社神道の昂揚を図るための叢書を刊行する。
叢書27『倭姫命を仰ぐー倭姫宮御鎮座百年を迎えてー』

皇學館大学文学部教授 松本 丘氏

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① 昼食の利用促進

神社関係者を中心に働きかけ、お神楽奉奏の団体には直会饗膳も提案する。

② 物品、記念品の販売

会館利用者並びに崇敬会会員へ記念品・特産品の販売並びに木製品・参宮記念品の謹製・頒布を行う。特に神宮大麻が全国のご家庭でより多くおまつりいただけるよう現代の生活空間に合った神棚を提案する。

③ 研修施設及び神宮相撲場の利用促進

講堂(大ホール・会議室)及び神宮相撲場の利用促進を図る。

④ 神宮参拝者駐車場の運営

内宮前の渋滞緩和の一助として、神宮会館横に隣接する立体駐車場を運営する。

⑤ コインロッカーの運営

宇治橋前にコインロッカーを設置し、内宮参拝者の便宜を図る。

⑥ 太陽光発電事業の運営

我が国のエネルギー政策であるCO2排出削減や再生可能エネルギー導入拡大への協力を行い地球環境保護に貢献するとともに、神宮会館経営の一助とする。

⑦ 神社関係者大会等に出向

各地で開催される神社関係者大会等に出向き、本会の広報を行う。

⑧ スポーツ及び文化活動への助成

行政を含めた協賛・後援依頼団体の行事及び事業の助成をする。

⑨ 参宮案内所における案内

神宮の参宮案内所(宇治橋前)に職員を派遣し、神宮に関する案内を行う。

以 上